

研究・調査報告書

報告書番号	担当
444	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Moderate Champagne consumption promotes an acute improvement in acute endothelial-independent vascular function in healthy human volunteers 健康なヒトボランティアにおいて中程度のシャンパン摂取は急性内皮依存性血管機能の急性的改善を促進する	
執筆者	
VAUZOUR David, HOUSEMAN Emily J., GEORGE Trevor W., CORONA Giulia, JACKSON Kim G., KENNEDY Orla B., LOVEGROVE Julie A., SPENCER Jeremy P.E., GARNOTEL Roselyne, SELLIER Christelle, GILLERY Philippe, GARNOTEL Roselyne, GILLERY Philippe	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
<i>Br J Nutr</i> , Vol.103 No.8 Page.1168-1178 (2010.04.28)	
キーワード	
心血管疾患、内皮依存性血管機能、シャンパン	
要旨	
<p>疫学研究によって、ワイン摂取と心血管疾患 (CVD) 発生率との逆相関が示唆されているが、シャンパンについては十分に検討がされていない。中程度の急性シャンパン摂取が血管機能を調節できるかどうか調べるため、無作為、プラセボ対照、交差試験を行った。シャンパン摂取が摂取後 4 時間と 8 時間で内皮依存性血管拡張の急性的変化を誘導したが、シャンパンとアルコール、果糖、酸量を合わせた対照ではこの変化は見られなかった。シャンパンと対照の両方で 4 時間で内皮依存性血管反応性の上昇が誘導されたが、どの時点でもシャンパンと対照で誘導される血管への影響で有意な差はなかった。この影響にはマトリックスメタロプロテイナーゼ 9 濃度の急性的な減少、酸化種の血漿濃度の顕著な減少、多くのフェノール代謝産物の尿中への排出の増加が伴う。シャンパン摂取後、対照と比べ、特に馬尿酸、プロトカテク酸、イソフェルラ酸の平均排出量が有意に増加した。以上より、フェノール成分によって NO のバイオアベイラビリティが改善、マトリックスメタロプロテイナーゼ活性が減少し、中程度のシャンパンの日常摂取が血管能力の改善に役立つ可能性が示唆された。</p>	